

第10回 プログラミングシンポジウム報告集

正 誤 表

頁	誤	正
目次(1ページ) 6段	} 中山 健	} 山 中 健
B-1 8段		
B-7 6段		

C3. FORTRAN用グラフ入出力プログラム

- (1) 頁C-32 下から11行目

「グラフ用データは、これらのブロックをフォワード・ポインタによりリンクしたもので、」

→ 「グラフ用データは、これらのブロックをフォワード・ポインタおよびバック・ワ
ード・ポインタによりリンクしたもので、」

に訂正

- (2) 頁C-32 下から6行目

「このプログラム機能には、次のものがある。」

→ 「このプログラムの機能には、次のものがある。」

に訂正

C8. HITAC 8811グラフィック・システムによる図形処理について

- (1) C-66 上から19行

行中コア → 行中にコア

- (2) C-69 下から2行目

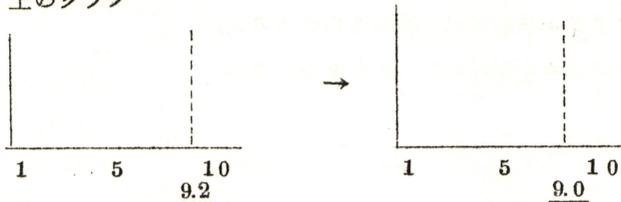
すべきだと思う → すべきである

D2. AIS(Automated Information System) - 情報検索処理システム -

- (1) D-12 下から8行目
2260 速隔装置 → 2260 速隔表示装置
- (2) D-13 上から4行目
13 OMACHINE → 130MACHINE
- (3) D-14 上から14および16行目
Privileged Code → Privileged Code
- (4) D-15 下から6行目
Customer Profile の一例を Fig. 1
→ Customer Profile の一例を Fig. 1 に示す.
- (5) D-17 上から3行目
NOS/360 → OS/360

D3. オンライン文献検索システム J \bar{O} L \bar{D} \bar{O} R

- (1) D-26 下 5 NWOC → KWOC
- (2) D-27 下 15 128 字程 → 128 字種
- (3) / 下 14 / → 128 字種
- (4) / 下 3 “ON-LINP” → “ON-LINE”
- (5) D-29 上のグラフ



- (6) D-41 上 10 合を入っている、相対 → 合の入っている相対
- (7) D-41 2.のハ) から set- → から set-no 3 と set -
- (8) D-41 の図 上から3行目 15 → 5
- (9) D-43 の図 上から5行目 1+2 → 1*2
- / / 7行目 3*4 → 3+4

D4. DIA システムのオンライン化への検討

ページ	行	誤	正
D-47	8行目	……の報告は <u>未だ</u> ,	……の報告は <u>未だ</u> ,
48	表下1 3行目	リモート <u>デ</u> ョブエントリ	リモート <u>ジ</u> ョブエントリ
52	14行目	<u>漏理式</u>	<u>論理式</u>
〃	30 〃	<u>LU TYPE</u>	<u>IU TYPE</u>
〃	35 〃	<u>メッセージ出力後</u>	<u>質問語入力前</u>
59	18 〃	であ <u>ろ</u> う。	であ <u>る</u> 。
60	1 〃	クセスメモリを <u>用</u> いても	クセスメモリを <u>用</u> いて検索時間を <u>0に近づけたとしても</u>
〃	1~2 〃	さらに質問入力……する <u>必要があ</u> <u>る</u> 。	さらに質問入力および結果出力に <u>ついて、入出力装置、方法、形式</u> <u>等を検討する必要がある</u> 。
〃	6~7 〃	明確に <u>な</u> される。	明確に <u>さ</u> れる。

D5. 自動ファイリング・システム

ページ	行	誤	正
D-61	上14行目	接 <u>待</u>	接 <u>辞</u>
〃	下7 〃	<u>Refreival</u>	<u>Retreival</u>
〃	下6 〃	〃	〃
D-62	上1 〃	磁気 <u>ユ</u> ア-	磁気 <u>コ</u> ア-
〃	上7 〃	<u>I/O</u>	<u>I/O</u>
〃	上9 〃	<u>Claaracter</u>	<u>Character</u>
D-63	上15 〃	これはキー <u>の</u>	これはキー <u>を</u>
D-64	上5 〃	品 <u>質</u>	品 <u>詞</u>
D-66	上2 〃	右端の <u>X</u>	<u>X</u> をとる
D-66	上15 〃	文字の	全部とる
D-68	上3 〃	<u>I/O</u>	<u>I/O</u>

E 1. 逆行列および行列方程式の展開の非数値解法

頁	行	誤	正
E-6	下から 14	$\det A_n \begin{vmatrix} a_{11} \cdots a_{1n} \\ \vdots \\ a_{n1} \cdots a_{nn} \end{vmatrix}$	$\det A_n = \begin{vmatrix} a_{11} \cdots a_{1n} \\ \vdots \\ a_{n1} \cdots a_{nn} \end{vmatrix}$
E-13	下から 8	5 部沢野氏	5 部沢野進氏
E-14	下から 10	例 行列式	例 行列
E-15	下から 17	7.1 行列式 a の	7.1 行列 a の
	下から 13	7.2 行列式の演算を	7.2 行列の演算を
	下から 12	7.2.1 行列式 x, y の	7.2.1 行列 x, y の
E-16	上から 2	7.2.2 行列式 x, y の	7.2.2 行列 x, y の
	上から 12	7.2.3 行列式 x, y の	7.2.3 行列 x, y の
	下から 3	7.3 Matrix の	7.3 行列の
	下から 2	1 つの matrix x の	1 つの行列 x の
E-17	上から 8	7.4 行列式の	7.4 行列の
E-18	上から 3	scalpred	scalprod
	上から 8	$z =$	$z :=$
	下から 10	行列式の	行列の
	下から 9	行列式の	行列の
	下から 8	行列式の	行列の
E-20	下から 6	行列式の	行列の
	下から 3	times 1 (RECIP	times 1 ((RECIP

E 5. ページ・メモリーをもつたリスト処理言語 FLIP-III

• page E-77

12行目 COMMON AVSL(2), W(100)

と

13行目 ASSIGN 100 TO LOC

の間に1行もうけて、新たに

DIMENSION L(2)

を追加する。

• page E-80

4行目 (ABC(XY)Z)

を

(A B C(X Y)Z)

のようにブランクを入れる。

• page E-82

図3の説明文 (A, B)の内部表現

を

(A·B)の内部表現

と改める。また同様に、図3の一番上の部分で

(A, B)

を

(A·B) と改める。

• page E-83

1行目 5.5 原子関数

を

5.5 原始関数 と改める。

• page E-84

10行目 融合した

を

融合した と改める。

• page E-85

4行目 TCAR, TCDR

を

TCAR, TCDR と改める。

• page E-88

参考文献〔4〕のところで

JAERI-memo 3174

と番号を入れる。

E 7 ALGOL compiler を machine independent に作成する試み

頁	行	誤	正
E-98	1. まえがきから1行目	私達は、これからの <u>progeamm-</u> <u>ing language</u> の記述言語に要求 される……	私達は、これからの <u>programing</u> <u>language</u> の <u>compiler</u> の記述言 語に要求される……
〃	1. まえがきから7行目	最後の単語 <u>hard</u>	<u>hand</u>
〃	1. まえがきから10行目	……を使うことの問題点も……	……を使うことの問題点が……
E-99	8行目	(3) <u>P{W/M}, T{L_S→L_O/M}</u> (1), (2)が計算機Mの上で……	(3) <u>P{W/M}, T{L_S→L_O/M}</u> (1), (2)が計算機Mの上で……
E-100	1行目	<u>L_X : asscmkler</u>	<u>L_X : assembler</u>
〃	表 1	メモリー容量 …… <u>32K</u> ワード	コアメモリー容量 …… <u>65K</u> ワード
E-101	表 2	言語 T2 の欄 JIS規格 : 追加 1. 2. 3. <u>identifier</u>	JIS規格 : 追加 1. 2. 3. <u>identifier</u>
		T1 の欄 入出力 <u>readreal(x)</u> <u>procedune</u> : <u>prmtinteger(k,i)</u> : <u>seuse(i, L)</u>	入出力 <u>readreal(x)</u> <u>procedure</u> : <u>printinteger(k, i)</u> : <u>sence(i, L)</u>
E-102	図 3	<u>convert (L_X(C₂₀₂)→L_X(C_X))</u> <u>load(L_X(C_X)⇒M_X)</u> <u>load(L_X→M_X)</u>	{ <u>convert {L_X(C₂₀₂)→L_X(C_X)}</u> } <u>load(L_X(C_X)⇒M_X)</u> <u>load(L_X⇒M_X)</u>
E-104	11行目	……X向きの language で……	……X向きの language <u>L_X</u> で……
〃	21行目	<u>L_I(C₂₀₂→L_I(C_X))</u>	<u>L_I(C₂₀₂)→L_I(C_X)</u>
E-109	下から5行目	<u>proceduve body</u>	<u>procedure body</u>
E-110	下から3行目	石田 穂さん	石田晏穂さん

本 PDF ファイルは 1969 年発行の「第 10 回プログラミング・シンポジウム報告集」をスキャンし、項目ごとに整理して、情報処理学会電子図書館「情報学広場」に掲載するものです。

この出版物は情報処理学会への著作権譲渡がなされていませんが、情報処理学会公式 Web サイトに、下記「過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について」を掲載し、権利者の検索をおこないました。そのうえで同意をいただいたもの、お申し出のなかったものを掲載しています。

https://www.ipsj.or.jp/topics/Past_reports.html

過去のプログラミング・シンポジウム報告集の利用許諾について

情報処理学会発行の出版物著作権は平成 12 年から情報処理学会著作権規程に従い、学会に帰属することになっています。

プログラミング・シンポジウムの報告集は、情報処理学会と設立の事情が異なるため、この改訂がシンポジウム内部で徹底しておらず、情報処理学会の他の出版物が情報学広場 (=情報処理学会電子図書館) で公開されているにも拘らず、古い報告集には公開されていないものが少からずありました。

プログラミング・シンポジウムは昭和 59 年に情報処理学会の一部門になりましたが、それ以前の報告集も含め、この度学会の他の出版物と同様の扱いにしたいと考えます。過去のすべての報告集の論文について、著作権者 (論文を執筆された故人の相続人) を探し出して利用許諾に関する同意を頂くことは困難ですので、一定期間の権利者搜索の努力をしたうえで、著作権者が見つからない場合も論文を情報学広場に掲載させていただきたいと思えます。その後、著作権者が発見され、情報学広場への掲載の継続に同意が得られなかった場合には、当該論文については、掲載を停止致します。

この措置にご意見のある方は、プログラミング・シンポジウムの辻尚史運営委員長 (tsuji@math.s.chiba-u.ac.jp) までお申し出ください。

加えて、著作権者について情報をお持ちの方は事務局まで情報をお寄せくださいますようお願い申し上げます。

期間：2020 年 12 月 18 日 ~ 2021 年 3 月 19 日

掲載日：2020 年 12 月 18 日

プログラミング・シンポジウム委員会

情報処理学会著作権規程

<https://www.ipsj.or.jp/copyright/ronbun/copyright.html>